

2023年1月ハイパーカレンダーレポート

岸田首相は、新型コロナウイルスの感染症法上の分類を5月8日から、インフルエンザなどと同じ「5類」に引き下げることを決定した。感染者や濃厚接触者の待機など行動制限がなくなり、コロナ禍の政策は、発生から3年で大きく転換する。またマスク着用が、3月13日から屋内外問わず個人の判断に委ねられる方針となった。いろんな感染対策が見直されていくことで、今年はウィズコロナの取り組みがさらに進められて、きっと平時の日本を取り戻していくことになるだろう。

さてハイパー研では、今年度から市民向けのスマートフォン講座を実施している。アンドロイドとiPhone、それぞれの講座を初級編から上級編に分けて行っている。講座では、スマートフォンの機能やその使い方、注意点などを講師が解説し、サポーターとして10名ほどが画面操作等を手伝っている。なぜなら、参加者は年配の方が多く、様々なスマートフォンに関する困り事を抱えて、講座中の個別対応が効果的だからである。おかげで講座終了後は、毎回、参加者の満足感が伝わってきている。官民間問わず個人サービスへのアクセスには、スマートフォンが最適である。今後もこの講座の必要性は、全国的にかついろんな分野で高まっていくことだろう。

12月レポートでご紹介したように、1月28日、おおいたAIテクノロジーセンターは「Oita AI Challenge 2023」をオフラインで開催した。今年度の総エントリー数は29件。県内企業からは、素晴らしいサービスや製品の応募があり、学生や一般の方からも様々なアイデアが出てきた。昨年度より数が増えただけでなく、質も全体的にレベルが上がっていた。最優秀ビジネス賞（大分県知事賞）には、「災害時の避難経路自動選定サービス」（株式会社ザイナス矢野氏）と、昨年度に続き災害対策分野の受賞であった。AIセンターの活動を行っていくなかで、AIを使ってみたい、AIを使ったアイデアを考えてみたいという声を聞くことが最近増えている。分野は様々で昨年度から54件のアイデアが生まれ、いくつかのチームは実証実験を進めている。コンテスト応募だけでなく、エントリーチームがコミュニティを形成することで継続的に活動することを支援する。コストや技術的な相談ができる場を提供する等、たくさんのアイデアを大分県のAI利活用事例として創出していくのだ。また、アイデアはあるけど実装に向けてどうしたらいいんだろうという方もいる。そうしたなかで、人や資金、場所を繋いでいくというのは大事なことだと考えている。来年度には、そうしたAIセンターの活動をもっと広範囲に深く充実させていく企画を予定している。AI利活用のハードルをもっと下げて、大分県内の方々にとってAIがより身近なものとなるように、このビジネスコンテストやその他活動を通して、アイデアを実現させていきたい！

（文責：坂口萌々子）